

第一章 意識の「別形態」

19

「アウトサイダー」と「別形態」+「マスロー」と「絶頂体験」+
アラビアのロレンスと、ものがあるがまに見る「根源知覚」+「ロボット」と「知覚の扉」+
「根源知覚」の謎を解く鍵は「大脳皮質の前頭葉前部」にあるのか

第二章 「二つの自分」という謎

31

人間にはなぜ脳が二つあるのか+そのひとつは「予備」なのか+大事な脳梁+
頸髄を予防するために行なわれた実験+スベリーの研究+人間にはまったく別の二つの心がある+
「自分」は左脳に住んでいる+ホルターガイスト現象は右脳に住む何者かの作業なのか+
ローゼンハイム事件+ダウジング+詩的な体験と右脳+「いつわりの私」+直観を言葉で表現する+
左脳は「内」を、右脳は「外」を見る+右脳がエネルギー供給源だ+
さらに多くのエネルギーを送らせるにはどうすればよいか+シャルコとヒステリー患者+
フロイトが無意識を発見する+意識は操り人形だ、と信じたフロイト+ノイローゼの真因は？+
右脳と左脳のあいだに「マイナスのフィードバック」が起こるからだ+
ローレルとハーディ+二重人格の実例+記憶に関するベンフィールドの発見+「私」は自分で思っ
ているよりも大きな存在なのだ+ヘッセの『荒野の狼』と「エイツ」+「部分的な心」+人間はみな、
ヒステリー患者ではないのか+ウィリアム・ジェイムズの『人間のエネルギー』+
「十全な自己」よりも劣ったままで生きつづける習慣+「この習慣を打ち破る方法は？」

第三章 さらに多くの謎

65

殺された人の霊が乗り移ったミステリー事件+人格は脳の構造の一部なのか+
生まれ変わりの実例+人格の分裂+人格にはさまざまなレベルがある+
「被害妄想」状態を自分でつくり出した例+自動書記+左脳は本心に悪玉なのか+
ヘッセの『ロシア人』の正体は？+意識の「二本の光線」+
ギボンの『ローマ帝国衰亡史』はどのようにして書かれたか+存在の「忘却」+
人間の進化はどこが狂ってしまったのか+人間は意識を正しく使いこなせている+
左脳とロボットの同盟+「権力と栄光」の酔いどれ神父+進化の新しい段階への突破口

第四章 フランケンシュタインの城

97

「日常の目ざめているときの完全無欠な意識よりも遙かに完全な意識状態をもたらすドラッグ+
時間の観念が消滅する+セロトニンの働き+松下腺+脳はフランケンシュタインの城だ+
「犯罪者」としての右脳+ハクスレーのメスカリン体験+ドラッグの欠点+「悪いトリップ」+
私自身のメスカリン体験+ハッシュシを奨励した小説+それは正しくない+
ジェインズの「二院制精神」+左脳自我の発達+タルソウの「文明否定」+フロイトの
『文明とその不満分子』+文明否定論が間違っていることを文明否定論者のサドが皮肉にも
身をもって立証した！+左脳意識のとりこならぬには？+ストレスがたまると、どうなるか+
自己暗示のもつ不思議な力+パイオ・フィードバックとは何か+パイオ・フィードバックでは
問題は解決しない+ウィリアム・ジェイムズとシャトリア共同生活体+
アレスター・クローリーの洞察力とその人間としての限界+ペーメの神秘的ヴィジョン+二重の意識

ハドソンの『心靈現象の法則』十「客観的精神」十「主観的精神」十主観的精神の不思議な力十ソクラテスと話をした近代人十催眠術とテレパシー十催眠状態で起る透視十心だけが遠い土地へ旅する旅行透視十多重人格と超能力十感覺外知覚(BSP)十超常現象のエネルギーはどこからくるのか十地中からか十電磁力が原因だとする説十自然発火十蓄電池と化した人間十動物の「帰巢本能」の謎十地磁気に敏感に反応する鳥十空中浮揚

私の個人体験十オプティミズムの重要性十クリスマスの経験がもつ意味十自信喪失十『バガヴァッド・ギータ』を読む十キリスト教の神秘家たちを研究する十人生は空しいか十自由というものの逆説的な性格十ラスコーリニコフ十イワン・カラマーゾフ十セント・ネオットの町で得た重大な洞察十精神集中によって意識をコントロール十パニック発作十『支配的五パーセント』十ブラナリア虫の実験十本当に危険なのは本能とロボットの同盟だ！

ハドソンの三原則十フランケンシュタインの城には狂った怪物などいなかった十出血を催眠術でとめた歯科医十催眠術で癒さえ良くなった実例十思考は脳から独立しているのか十「純粹思考体」説十心という幻燈装置十「司る自我」を私は洞察した十「ミングウエイの」兵士の故郷十自己は梯子段である十習慣ノイローゼ十個人的自我に反対したD・H・ロレンス十イェイツとミケランジェロ十

ユダヤ人が強制収容所で感じた喜び十暗示の力十マスローが学生たちに絶頂体験を経験させる十ホースと蛇口十「生挫折」のメカニズム十「三国同盟」の失敗十自我こそ責任者だ十致命的な本能十ロボット同盟十脳梁切断の手術をしても遠いが生じない理由十モーツァルトと創造性十悪循環十実弾をこめた拳銃で「ロシア式ルーレット」をしたグラム・グリーン十自分が自由であることを発見した主婦十人間は腕時計のスプリングで動く大時計だ十「しさえすれば」感情十「自由であるのは何でもない、自由になることこそ天国である」十折れたスプリング十ラーマクリシュナが体験したサマーデイ(神の恍惚)十要約——「三国同盟はまだ新しい十草を食う虎」の寓話十疎外と自己分裂十キルケゴール、カミュ、サルトル十私自身の分析